

西洋二等マシキスト 歳俸 四百元 職俸 四百八十元 航海俸 七百二十元	表火之番之上 御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金二十兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 二百元 職俸 三百元 航海俸 六百元ヨリ 五百四十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元
表火之番之上 御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金五十兩 西洋二等マシキスト 歳俸 三百元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元	御軍艦頭支配 御軍艦添役 高八十俵扶持 役金三十兩 西洋セルシアントマヨ 歳俸 貳百元 職俸 三百二十四元

學問所勤番之上 御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄
學問所勤番之上 御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄	御軍艦頭支配 御軍艦添役並 高七十俵扶持 役金十五兩 西洋二等ランドルヲヒシ 歳俸 一百五十元 職俸 二百元 航海俸 四百八十元ヨリ 一百八十元迄

海軍御建興之儀ニ付申上候書付

御國海岸御備向之儀者海軍十分御建興無之候而者不叶義
 二而右海軍全備致一候者先頃取調申上候通大小船數三百

七拾艘程も御造立相成候事故全國之力を悉皆茲ニ御竭無
之候而者難行届固一朝一夕之義ニ者無之候得共御建興之
仕法漸々御造立被爲在候ハ、數十年之後ニ者終々全備仕
様相成可申候間右御仕法相立候事尤方今之御急務ニ御座
候此程諸大名參勤之期御緩相成又諸獻上物等御差止被仰
渡候者專富國強兵之御主意を以全國之守衛を被爲修義と
奉存候ニ付此上者速々海軍御建興之御仕法被仰出諸大名
各其分限ニ應一々年々海軍兵賦爲差出且海外互市御免相成
其出入口之稅銀を收て海軍用費ニ充候ハ、國內疲弊之害
おくくして終ニ者海軍全備之利を享候様相成可申候尤
皇國封建之御制度ニ於てハ諸大名々海軍御分托有之候事
當然之様有之候得共左候而ハ無此上御失策ニして現ニ如

何ある事五ヶ條有之候瀕海之諸大名其分限ニ應一々譬ハ十
万石ニ付コルヘット船壹艘五万石ニ付スル一々船壹艘
壹万石之者ハ三四家ニ而壹艘宛御托與被仰付候時ハ海
岸領分無之大名ハ右ニ準一々獻金爲致候事勿論之義ニ御座
候乍併瀕海之諸大名者軍艦製造ハ一々專自國を守り候者
當然之勢ニ御座候間右様被仰付候者固得意之義ニも可
有之候得共海岸領分無之獻金仕候者も更ニ自國之益無之
候間己れ獨り海軍之兵賦差出一々候様相心得必甘心之場合
ニ至り申間敷左候而者全國上下一致して海軍御建興之義
ニ難叶是不可ある事一ヶ條ニ御座候方今軍艦製造之法未
備就中蒸氣機械等者御國ニ於て出來仕兼候物も有之海軍
將士を生育仕候ニも教師敷足り不申何れニも外國人相招

傳習爲受候歟海外諸國に御差遣し不相成候而者十分行届
 難申是等之儀國家御一手に而御取扱被爲在候時ハ自由御
 行届相成可申候得共諸大名に御任せ相成候へと斷然右様
 難行届加之其中必種々の流弊出來可申如何様御督責有之
 候而も急速成就之義無覺束必責を塞候迄に而不中用もの
 可有之左候而者建置之遲速有之候而已ならず精粗之分有
 之是不可ある事二ヶ條に御座候海軍之強弱者紀律之齊整
 一關涉仕紀律之齊整者一人之統轄に歸せされハ難被行候
 假令諸大名被仰付候通軍艦出來以多し候とも必一組二十
 艘以上を以各家船隻打交り互に相抗する之勢ありて一致
 之心ある必區々の紀律相立號令難被行一旦緩急有之候と
 も活用無覺束是不可ある事三ヶ條に御座候御國者四面

皆海に候得者所在之港灣へ悉く軍艦を備可置義にあらす
 特に五六ヶ所之要地に御備置相成

皇國之海軍首尾應援して一身之手足を運ぶるか如くなら
 されハ更に其益無之候然ルに今大名に御分托有之時ハ專
 ら自國を守り候志出來無益之港灣へ數隻之軍艦有之とも
 要地に於而者却而守る様相成迎も同心協力之程難測是
 不可ある之四ヶ條に御座候此度諸大名皆在國在邑被仰
 付專富強之策可修御趣意に御座候得共隱然割據之勢已に
 萌し候處今にして豫め是に備をなさる時ハ後世必弱肉
 強食之禍四分五裂に至らされハ相止不申當此時海軍之大
 權御一手に御統轄相成居候得者如何ある強梁跋扈之大藩
 有之候とも是を討滅致し候事不難義に御座候若又諸大名

に海軍御分托相成候時ハ所謂齋盜糧之義ニ而其禍不可測
義ニ御座候是尤不可ある事五ヶ條ニ御座候此五不可之義
實ニ國家之存亡興廢ニ關係仕候ニ付海軍之大權者必御一
手ニ而御統轄被爲在候様奉存候當今諸大名中半者航海之
術未開不申候間其大權を被爲統轄候者只此時ニ御座候依
之先達申上候通十二艘之御軍艦速ニ御備置相成諸大名に
者同心協力之儀篤と御訓誨有之其分限ニ應一軍賦爲差出
漸々全國之御守備被爲建候ハ、一二之大藩自國守衛之軍
艦として相造り候とも大權者國家之御一手ニ有之候間紀
律齊整致一號令一致仕退而國內を守り進而敵國を攻るニ
足リ終ニ者東海之一強大國と相成西洋各夷と衡を天下ニ
争ふ事不難義ニ御座候若又御建興之初ニ於而御失策有之

候ハ、利去り害止り難如何事出來可申候間實ニ取捨之際
興亡之管をる所不容易儀と奉存候

戌九月

海岸御備向大綱取調申上候書付

御軍制掛

海岸御備向大綱取調可申上旨被仰渡候ニ付一同評議仕候
處御國者四面海ニ接候故海軍十分御建置相成要所に砲臺
御取建無之而者難相成義ニ付先者海軍十分之御備向大綱
爲取調候處別冊之通ニ御座候右様相成候得者彼を攻我を
守ニ足り未戰而萬國之膽を破り遂ニ者東海之一強大國ニ
相成假令萬國合從して四面襲來候とも十分防禦行届可申

義と奉存候乍併右者全國之海備ニ付實ニ無此上御大業ニ候間御用途も亦浩大之儀固り國家御一手ニ而御修備可被爲在義ニ無之全國之力を悉皆海軍ニ御用ひ無之候而者難行届義ニ付何れニも御制度大御變革有之無益之費用を省き簡易之御改革被行冗官を廢し贅費を減し天下之耳目を一新爲致諸大名之御取扱振等御改正有之其分限ニ應し海軍兵賦等爲差出候様不仕候而者難叶義ニ御座候一体海軍之義者 御國全体ニ關係仕候大事件ニ付封建之御制度ニ而者諸大名に御分托可有之者當然之義ニ御座候得共左候而者海軍之大權相分れ 御國威難相立其故者海軍一ト組中各家ニ而船隻を編成致し或ハ兩三家ニ而一船を共ニ致し候様相成候而者紀律齊整以多し難く號令一致も不行届

假令數隻之軍艦百万之兵士有之候とも夫丈之活用者難施且其建置之義も 國家御一手ニ而御取扱有之候時ハ外國之造船師并海軍將士等を御募相成船隻御打建航海士人御養立等之義も自由ニ行届可申候得共諸大名各家ニ而者右様之譯ニも相成兼其成立之遲速大ニ逕庭可有之候封建之勢内輕外重ニ陥り候者古今之通弊ニ有之候間方今海軍御建置之初めニおわ而其大權を國家ニ而御統轄被成候御仕向ニ相成候ハ、紀律齊整致し號令一致仕 御國威海外ニ輝キ西洋各國と衡次天下ニ争ふ事不難義と奉存候得共右者固り不容易御大業ニ而一朝一夕之儀ニ者難被行候ニ付右之御主意を目的と致し漸く御取設之積リニ而先取分急務御備場所江戸大阪兩港之分取調候處別冊之通ニ御座候

間是者不日ニ御手初め相成候様仕度只ク議論ニ而時日を
費候而者防禦筋之端緒を可被爲開機會も取失ハ候義ニ付
右兩所御備向丈ケ者急速御取建之義被 仰出候様仕度前
書諸大名御取扱振兵賦差出方御入用金出方御仕法之義者
江戸大阪港御備船等御落成之上諸家之機會人心居合方之
模様ニ寄其節篤と取調申上候様可仕候依之取調書二册相
添此段申上候以上

戊閏八月

江戸大阪港御備軍艦一隊并小形蒸氣船等取調書

此組方

一フレガット蒸氣軍艦三艘

乗組人數千四百五拾人

内

九拾人 但壹艘ニ付三拾人宛三艘

御軍艦頭取同組

千百八拾八人

水夫火焚人

但同斷ニ付三百九拾六人ツ、三艘分

百八拾人

海兵卒

但同斷ニ付六拾人ツ、三艘分

一コルヘット蒸氣軍艦九艘

乗組人數貳千五拾貳人

内

百九拾八人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、九艘分

千五百八拾四人 水夫火焚人
但同斷ニ付百七拾六人ツ、九艘分

貳百七拾人 海兵卒

但同斷ニ付三拾人ツ、九艘分

合拾貳艘一隊組

外ニ

一蒸氣運送船壹艘

乗組人數四拾四人

内

六人

御軍艦頭取同組

三拾八人

水夫火焚人

一小形蒸氣軍艦三拾艘

乗組人數千三百五拾人

内

百八拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、三拾艘分

千五拾人

水夫火焚人

但同斷ニ付三拾五人ツ、三拾艘分

百貳拾人

海兵卒

但同斷ニ付四人ツ、三拾艘分

總合船數四拾三艘

三艘

フレガット船

九艘

コルヘット船

壹艘

蒸氣運送船

三拾艘 小形蒸氣船

此乗組惣人數四千九百四人

四百七拾四人 御軍艦頭取同組

三千八百六拾人 水夫火焚人

五百七拾人 海兵卒

右四拾三艘之内引分大阪港御守衛船ニ御差遣ノ相成候積御座候時宜ニ寄候儀ニハ候得共先フレガット壹艘コルヘット三艘關名一エヌ外ニ小形蒸氣船拾艘御廻相成候方可然ト奉存候

御國周回海岸御警衛軍艦備方大綱
取調書

東海備三組 江戸港々相置但一組 フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦 九艘

乗組人數四千三百七拾四人

内

貳百七拾人 御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、九艘分

三千五百六拾四人 水夫火焚人

但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、九艘分

五百四拾人 海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、九艘分

一コルヘット蒸氣軍艦 貳拾七艘

乗組人數六千百五拾六人

内

五百九拾四人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、貳拾七艘分

四千七百五拾貳人 水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、貳拾七艘分

八百拾人 海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、貳拾七艘分

外

一小形蒸氣軍艦 四拾艘

是者前書三組ノ附屬致一候分

乗組人數千八百人

内

貳百四拾四人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、四拾艘分

千四百人 水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、四拾艘分

百六拾人 海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、四拾艘分

船數七拾六艘

九艘 フレガット 蒸氣軍艦

内 貳拾七艘 コルヘット 同斷

四拾艘 小形蒸氣船

乗組人數壹万貳千三百三拾人

千百四人

御軍艦頭取同組

内九千七百拾六人

水夫火焚人

千五百拾人

海兵卒

是者房州洲之先より東海岸通奥州金花山迄相州城ヶ島より
南海岸通紀州大島迄且伊豆七島小笠原島其外諸群島を持場
と致し候

東北備四組箱館港に相置但一組

フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦拾貳艘

乗組人數五千八百三拾七人

内

三百六拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、拾貳艘分

四千七百五拾七人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、拾貳艘分

七百貳拾人

海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、拾貳艘分

一コルヘット蒸氣軍艦三拾六艘

乗組人數八千貳百八人

内

七百九拾貳人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、三拾六艘分

六千三百三拾六人

水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、三拾六艘分

千八拾人 海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、三拾六艘分

外

一小形蒸氣軍艦五拾艘

是者前書四組ノ附屬致一候分

乗組人數貳千貳百五拾人

内

三百人 御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、五拾艘分

千七百五拾人 水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、五拾艘分

貳百人 海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、五拾艘分

船數九拾八艘

拾九艘 フレガット 蒸氣軍艦

内三拾六艘 コルヘット 同斷

五拾艘 小形蒸氣船

乗組人數壹万六千貳百九拾五人

千四百五拾人 御軍艦頭取同組

内壹万貳千八百四拾三人 水夫火焚人

貳千人 海兵卒

是者奥州金花山より東海岸通三厩迄夫より北海岸通同國大
間越迄蝦夷地一圓を持場と致一候積

北海備壹組能州別所邊々相置

但壹組 フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦三艘

乗組人數千四百五拾八人

内

九拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、三艘分

千百八拾八人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、三艘分

百八拾人

海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、三艘分

一コルヘット蒸氣軍艦九艘

乗組人數貳千五拾貳人

内

百九拾八人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、九艘分

千五百八拾四人

水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、九艘分

貳百七拾人

海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、九艘分

外

一小形蒸氣軍艦拾艘

是者前書壹組に附屬致し候分

乗組人數四百五拾人

内

六拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、拾艘分

三百五拾人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、拾艘分

四拾人

海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、拾艘分

船數貳拾貳艘

三艘

フレガット蒸氣軍艦

内九艘

コルヘット同斷

拾艘

小形蒸氣船

乗組人數三千九百六拾人

三百四拾八人

御軍艦頭取同組

内三千百貳拾貳人

水夫火焚人

四百九拾人

海兵卒

是者雲州宇龍崎より北海岸通羽州能代迄且隠岐佐渡等持場と致し候積

西北海備下之關に相置

但壹組

フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦三艘

乗組人數千四百五拾八人

内

九拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、三艘分

千百八拾八人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、三艘分

百八拾人

海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、三艘分

一コルヘツト蒸氣軍艦九艘

乗組人數貳千五拾貳人

内

百九拾八人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、九艘分

千五百八拾四人

水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、九艘分

貳百七拾人

海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、九艘分

外

一 小形蒸氣軍艦拾艘

是者前書壹組に附屬致し候分

乗組人數四百五拾人

内

六拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、拾艘分

三百五拾人 水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、拾艘分

四拾人 海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、拾艘分

船數貳拾貳艘

三艘 フレガット蒸氣軍艦

内九艘 コルヘット同斷

拾艘 小形蒸氣船

乗組人數三千九百六拾人

三百四拾八人 御軍艦頭取同組

内三千百貳拾貳人 水夫火焚人

四百九拾人 海兵卒

是者長州下之關より海岸通雲州宇龍崎まで豊前小倉より北
海岸通肥前田付迄藝州御手洗より周防南海岸通り長州田之
浦迄且四國內海西海岸通并壹岐對馬等と持場と致候積

西海備三組長崎港に相置

但壹組 フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦九艘

乗組人數四千三百七拾四人

内

貳百七拾人 御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、九艘分

三千五百六拾四人 水夫火焚人
但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、九艘分

五百四拾人 海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、九艘分

一コルヘツト蒸氣軍艦貳拾七艘

乗組人數六千百五拾六人

内

五百九拾四人 御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、貳拾七艘分

四千七百五拾貳人 水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、貳拾七艘分

八百拾人 海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、貳拾七艘分
外

一小形蒸氣軍艦四拾艘

是者前書三組ノ附屬致候分

乗組人數千八百人

内

貳百四拾人 御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、四拾艘分

千四百人 水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、四拾艘分

百六拾人 海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、四拾艘分

船數七拾六艘

内

九艘

フレガット蒸氣軍艦

内貳拾七艘

コルヘット同斷

四拾艘

小形蒸氣船

乗組人數壹万貳千三百三拾人

千百四人

御軍艦頭取同組

内九千七百拾六人

水夫火焚人

千五百拾人

海兵卒

是者肥前平戸より西海岸通長崎迄夫より肥後國天州且五島薩摩日向大隅迄其餘琉球國をも持場と致候積

南海備三組大坂に相置

但壹組

フレガット軍艦三艘
コルヘット軍艦九艘

此組方

一フレガット蒸氣軍艦九艘

乗組人數四千三百七拾四人

内

貳百七拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付三拾人ツ、九艘分

三千五百六拾四人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三百九拾六人ツ、九艘分

五百四拾人

海兵卒

但壹艘ニ付六拾人ツ、九艘分

一 コルヘット蒸氣軍艦貳拾七艘

乗組人數六千百五拾人

内

五百九拾四人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付貳拾貳人ツ、貳拾七艘分

四千七百五拾貳人

水夫火焚人

但壹艘ニ付百七拾六人ツ、貳拾七艘分

八百拾人

海兵卒

但壹艘ニ付三拾人ツ、貳拾七艘分

外

一 小形蒸氣軍艦四拾艘

是者前書三組ハ附屬之分

乗組人數千八百人

内

貳百四拾人

御軍艦頭取同組

但壹艘ニ付六人ツ、四拾艘分

千四百人

水夫火焚人

但壹艘ニ付三拾五人ツ、四拾艘分

百六拾人

海兵卒

但壹艘ニ付四人ツ、四拾艘分

船數七拾六艘

九艘

フレガット蒸氣軍艦

内 貳拾七艘

コルヘット同斷

四拾艘

小形蒸氣船

乗組人數壹万貳千三百三拾人

千百四人

御軍艦頭取同組

内九千七百拾六人

水夫火焚人

千五百拾人

海兵卒

是者紀州大島より南海岸通同國大川迄讚州志波より北海岸通豫州青島迄且四國海岸一圓淡路等持場と致し候積

合六備拾五組

船數三百七拾艘

内

四拾五艘

フレガット 蒸氣軍艦

百三拾五艘

コルヘット 同斷

百九拾艘 小形蒸氣船

乗組人數六万千貳百五人

内

五千四百六拾人

御軍艦頭取同組

四万八千貳百三拾五人

水夫火焚人

七千五百拾人

海兵卒

外

運送船

三拾艘

ヤール船

三拾艘

相圖船

拾五艘

合船數七拾五艘

乗組人數三千七百五拾人

内

百五拾人

御軍艦頭取同組

三千六百人

水夫火焚人

以上

前年外警ノ一トタヒ我カ長眠ヲ破
有司大ニ驚駭シ邊防ノ忽ニス可ヲサルヲ知リ俄ニ
堅艦ヲ製シ巨礮ヲ鑄又品川ノ砲臺ヲ始トシテ各所
海岸ノ警衛等其事多端ニシテ費途モ亦莫大ナリシ
ヲ以テ遂ニコレヲ各地ノ富豪ニ課シ其献金ヲ促ス
ニ至ル

丑八月

御代官々申渡之覺

外寇之義ハ國家之大患ニ候處近來異國船度々渡來其次第
ニ寄候而者安危ニも拘り候義ニ付西丸御普請と始臨時之
御出方相續候折柄ニ者候得共莫大之御入費とも不被爲厭
内海々嚴重ニ御臺場御取建被 仰出猶追々御處置之次第
も有之候積國家之安危ハ四民之患ニ而武家者武備一圖ニ
力を用ひ可申旨被 仰出農工商之義ハ別段御沙汰も無之
候得共防禦筋ニおかてハ四民共力を盡し可申義ニ付御料
所村々之内ニも右体不容易筋を會得いたし且ハ昇平貳百
年來之御恩澤ニ浴し御備筋御入用之内々上納相願候内存
之者も可有之哉左候ハ、前書之次第者勿論西丸御普請ニ
付而も格別下々と被爲厭聊御用金も不被 仰付厚キ御仁